

第3回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2022年9月22日(木) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 15名

◇実践報告 長野県北信教育事務所生涯学習課 指導主事 菅原勇介先生

「コミュニティ・スクールとESDのつながり

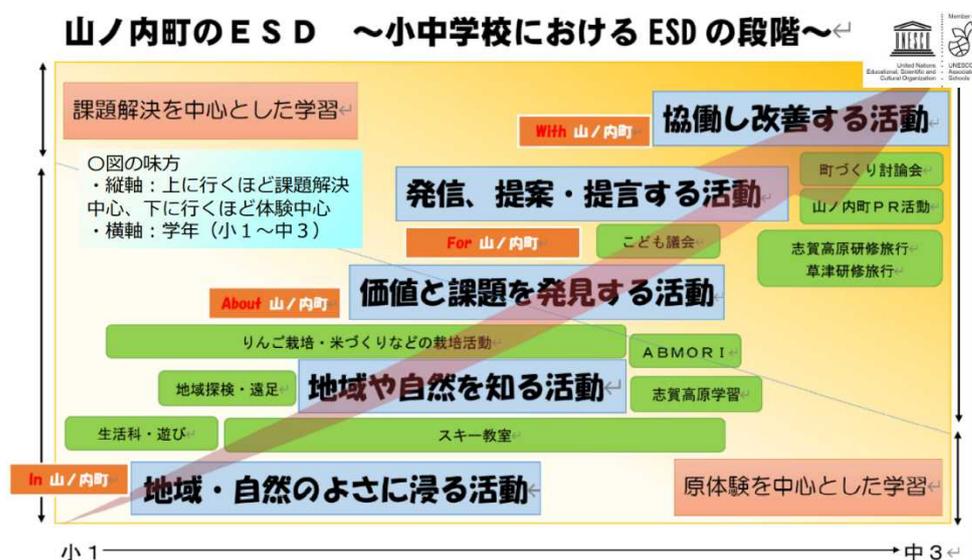
～地域とともにある学校 学校とともにある地域の持続可能性～

【報告概要①】

山ノ内町立南小学校(昨年度までの勤務校)の取組

山ノ内町はすべての学校がユネスコスクール

志賀高原(ユネスコ・エコパーク)を題材に様々な取組を進めている



6年 「志賀高原の水ってきれいなのかな？」

5年生の時に作った「雪白舞」は、どうして食味金賞をとれたのか → 水がきれいだから？

信州大学の研究施設の見学 — 大人が一生懸命取り組んでいる 大人も勉強するんだ

学校近くの川の水質調査 田んぼの水質調査 → やっぱりきれいだ

修学旅行で行った氷見の海岸で拾ってきたごみについて調べる

→ 山と海は川でつながっている！

源流部はきれいなのか？ (パックテスト) やっぱりきれいだ！ でも、ここにもごみが...

きれいな川を何としても大切に守っていききたい

町はどうやってきれいな水を守ろうとしているのか、役場の方から話を聞く

ユネスコ・エコパークの保全については総合計画にもあるが、水については書かれていない

同じ上流部の奈良県川上村の取組に学ぼう 森と水の源流館の尾上さんとオンラインで交流

川上村は村をあげてきれいな川を守ろうとしているのがすごい

尾上さん「でも、実は山ノ内町の方がすごいんだよ。」の言葉に揺れ動く

飯田市天竜川総合学習館(中流部)との交流

天竜川は上流部が汚れている そんなことがあるの？ 価値観が揺れ動く

「やまのうち交流会」町内の小学校との学習交流
 議員さんや教育委員さんなどにも聞いてもらおう
 大人の人にこそ伝えよう

5年 「地域の共同浴場」

町のことをよく知らない人に聞かれると、「たくさん温泉があるところ」
 子どもにとっては当たり前の共同浴場が、実はとても珍しく貴重なもの
 残って行ってほしいな
 健康教育と ESD を軸とした取組
 「どうすれば、今後も愛される共同浴場になるだろうか？」

【質疑応答から】

- ・6年生の取組で、最後の交流会がとてもいい。
 行政の方にも伝えようとしているところに、学びの深まりが感じられる。
- ・本物に触れる、本気で取り組む大人に出会うことの大切さを改めて感じた。ESD ではこれが大事！
- ・大人がいっしょけんめい ESD に取り組んでいる姿に触れることで大きな刺激になっている。
- ・子どもが、相手が大人でも臆することなく意見を述べているが、どのように育っていったのか？
 → 「話し合いをしよう」ではなく、「近くの人とおしゃべりしよう」を日常的にやっていた。
 そのうち子どもが自分の考えをよく言うようになっていった。
 学校全体で取り組んでいることで、批判的に考える力はかなりついてきたと感じる。

【報告概要②】

学校運営協議会（コミュニティ・スクール：C・S）に向けての長野県の取組

コミュニティ・スクール(国C・S) = 学校運営協議会を設置した学校



※ 令和3年度市町村コミュニティ・スクール 生涯学習担当者会議文科省説明資料より

地域とともにある学校づくりを実現するためのツール

- ・学校運営の基本方針の承認

3つの権限

- ・学校運営に意見を述べる
- ・教職員の任用について意見を述べる

「支援」（一方通行）ではなく、「連携・協働」（双方向）
これは日本の強みのはず
熟議と協働活動

**「熟議」とは
地域ぐるみの子育てのための「プロセス」**

- ① (様々な立場の) 多くの当事者があつまる
- ② 課題について、学習・熟慮・議論
- ③ 互いの立場や役割が分かる
- ④ 立場・役割に応じた「できること」が見える
- ⑤ 納得して「できること」ができる



栄小学校の取組・・・学校、子ども、地域の三者互恵の関係

保科小学校の取組・・・子どもの必要感と地域の必要感の重なり

C・S と ESD は近いものがあると思う。

【意見交流】

- ・福岡市には C・S はないが、学校サポーター制度というものがある。役割については C・S に近い。
- ・仕組みとしてはあるが、一般には認識されていないのではないかと思う。
- ・地域コーディネーターの方が学習に対していろいろ支援してくれて助かっている。
ただ、地域によってはコーディネーターがなかなか見つからないところもある。
- ・制度としてはいいが、まだまだ十分に整っていない感がある。
- ・ボランティアで関わってくれる人は多数いるが、組織としてまだ出来上がっていない感じがある。
- ・目的が明確されていない学校も多い。
- ・学校現場でも、一般の教員からはなかなか見えないところがあり、よく分かっていない教員が多い。
- ・キーワードは「地域創生」 学校を拠点としてよりよい地域をつくっていくという理念の共有
- ・C・S は、「社会に開かれた教育課程」を実現していくためにも重要なツール
- ・また C・S は、ESD をより効果的に進めていくためのツールの一つであると思う。